



平成24年11月10日発行 (毎月1回10日発行)

函館商工会議所報

と も え

2012

11

No.356



CONTENTS

巻頭特集

大間原子力発電所に 対する見解

- ◆新入会員ご紹介 P10
- ◆企業探訪..... P12



しんくみのフリーローン

チ

ヨ

イ

ス

Choice

使いみち自由

手続きカンタン

原則、本人確認資料のみでOK!

返済期間最長7年

Web・Fax 仮審査 24時間受付中!

原則、翌日までに仮審査結果をご連絡いたします。

<http://www.hakodate.shinkumi.jp/>

融資利率は4段階の固定金利

● 年利 5%・7%・10%・14%

保証会社が低い金利から順に審査を行い、お客様の審査結果に応じたご融資利率とご融資金額を決定いたします。

最高300万円迄ご融資

●お申し込みに際しては審査をさせていただきます。

●審査によってはご希望にそえない場合がございますので、ご了承ください。

ご利用いただける方

●以下の条件すべてを満たす方

- ①満20歳以上65歳以下で、完済時70歳以下であること
- ②安定・継続した収入の見込める方
- ③本ローン申込金額と当組合でのフリー系無担保ローン(カードローンを除く)残高の借入合計額が300万円以下であること

ご融資金額

- 10万円以上300万円以下
- 但し、主婦・パート・アルバイトの方は30万円以下

ご融資期間

- 7年以内

お使用みち

- ご自由 但し、事業性資金は除きます

ご融資利率

- 4段階金利とします 年5%、年7%、年10%、年14%

保証料率

- ご融資利率に含まれます

保証会社

- 全国しんくみ保証㈱

遅延損害金

- 年14%

ご融資方法

- 証書貸付

ご返済方法

- 毎月元利均等分割返済(ボーナス併用返済不可)
- ご本人名義の預金口座からの自動引落としとします

連帯保証人

- 原則不要
- 但し、保証会社が必要と認めた場合は、この限りではありません。

提出していただく書類

- ①本人確認書類
運転免許証写し・写真付き住民基本台帳カード写し・健康保険証写し・パスポート写し・印鑑証明書のうち一点
- ②所得証明書
原則不要
但し、保証会社が必要と認めた場合は、この限りではありません。
- ※①②は連帯保証人についても必要となります



函館商工信用組合

<http://www.hakodate.shinkumi.jp/>
本店/TEL(0138)23-2101(代) FAX(0138)23-0798

平成24年11月10日発行(毎月10日発行)

函館商工会議所報

ともえ

11月号 (通巻356号)

ウォームビズ実施中です!

本所では11月1日から4月30日までウォームビズを実施しています。

期間中は館内の暖房時室温を22℃に設定していますので、皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

12月号休刊のお知らせ

所報ともえは毎年12月号を休刊させていただいております。

次号は合併号として1月10日発行の1月号となりますのでご了承ください。

■今月の表紙

「湯の川遊覧地香雪園ノ景」

写真は、香雪園を撮影した昭和初期と推察される一葉です。

香雪園は、明治31年に豪商・岩船峯次郎氏の別荘として造られたもので、道内の庭園としては唯一の国の名勝に指定されています。昭和2年に市民に一般開放され、毎年、秋も深まる季節には色鮮やかな紅葉を求め、たくさんの市民が訪れます。

(函館市中央図書館所蔵)



CONTENTS

2 特集 大間原子力発電所に対する見解

4 会議所のうごき

- 北海道知事等と全道商工会議所会頭との懇談会
- 道南台湾観光友好協会を発足
- 合同委員会
- 総務委員会
- 輸送ターミナル岸壁着工式
- はこだてスイーツフェスタ2012
- 台湾エバー航空の函館-台北線国際定期便就航
- 議員会
- 女性会
- 青年部
- 今後のうごき

8 中小企業相談所だより

- マル経融資
- 環境経営セミナー
- 北海道最低賃金
- 個別専門相談日程

10 新入会員ご紹介

11 新幹線情報

12 企業探訪

- 環境創研(株)

14 はこだてクリスマスファンタジースーパー

15 ご案内

- 国の教育ローン
- 登記ねっと

16 連載コラム 快進撃企業に学べ

- 地域の人への恩返しを続ける『さいち』

広告掲載企業

函館商工信用組合
 (株)中合棒二森屋店
 北海道事業引継ぎ支援センター
 (業)英知国際特許事務所
 函館環境衛生(株)
 中小企業基盤整備機構
 (有)梅乃寿司
 (株)日本マネージメント・リサーチ
 龍文堂印刷(株)
 (株)環境デザイン
 (株)日本経済新聞社
 あいおいニッセイ同和損害保険(株)
 NHK函館放送局
 商工会議所ニュース

表紙裏
 裏表紙裏
 裏表紙
 段下
 段下
 段下
 段下
 段下
 段下
 折込
 折込
 折込
 折込
 折込

大間原子力発電所に対する見解

本所では函館市等とともに大間原発の無期限凍結を求めています

政府は、東日本大震災により原子力発電の安全性が崩れ、現在でも約16万人の人々が避難生活を余儀なくされている福島原発の事故を受けて、これまでのエネルギー社会の在り方を抜本的に改革するために、今年9月に革新的エネルギー・環境戦略を策定しました。この戦略では、①40年運転制限を厳格に適用する②原子力規制委員会の安全確認を得たもののみ再稼働とする③原発の新設・増設は行わないとの三つの原則を掲げています。

このような中、函館から津軽海峡を挟んで最短23kmにある大間原発が10月1日に建設を再開し地域に大きな衝撃を与えました。大間原発の50km圏内の人口は、青森側が9万人なのに対し、北海道側が37万人となっており、万一の事故では北海道の方がより大きな被害が想定されますが、事業主体である電源開発(株)は、建設再開に対する説明や北海道からの意見を聞くことなく、一方的な建設再開の通告をしてきました。

建設が再開されたのは、大間原発が震災前から既に政府の設置許可が出ていたため「原発の新設」の対象にはならないとされたからですが、

▶函館と大間原発は最短で23km。範囲を50kmに広げると周辺市町村も含まれる。



これは震災前の安全基準による設置許可であり、震災後に発足した原子力規制委員会による安全確認は受けていません。さらに、大間の周辺海域には研究者による調査で存在が判明した海底活断層のほかに、二つの活断層が存在する可能性もあり、これらの活断層による大規模な地震発生による危険性が懸念され、一刻も早く建設を中断し耐震性の確認と新たな活断層の調査が求められます。

また大間原発の燃料は、核兵器にも使用される極めて毒性の強いプルトニウムとウランの混合酸化物であるモックス燃料を100%使用する世界初のフルモックス方式を採用します。これは非常時の核分裂の制御が難しく、被害は福島原発の比ではないとされているにも関わらず、実験炉での検証すら行われていません。さらに建設地は、外航船が頻繁に往来する国際海峡の津軽海峡に面した下北半島の先端に位置しており、国の安全保障上強い懸念をもっております。

とりわけ観光が基幹産業である函館にとっては、風評被害のリスクに晒される危険に加えて一度事故が起きれば、市民の日常生活、新鮮な農水産物、街を歩く観光客など、函館が今まで築き上げてきた歴史、文化、産業、生活の全てを失う取り返しのつかない事態に陥る可能性を秘めています。

本所定款の第1条には、「地区内における商工業者の共同社会を基盤とし、商工業の総合的な改善発達を図り、兼ねて社会一般の福祉の増進に資する」と活動目的が記されております。先

に行ったエネルギー動向に関する会員アンケート調査からは、既存の原発は安全確認した上で再稼働し段階的に減らすべきだとの回答が約7割に達しており、本所としても経済成長を阻害する恐れがある原発ゼロをあえて訴えてはおりません。また、大間町は古くからフェリー航路を通じて経済的、文化的な交流があり、近年では津軽海峡産のマグロで互いにブランドを確立するなど、今後も友好関係を構築すべき町であ

ることに変わりはありません。

しかし、大間原発の建設再開には多くの矛盾と危険があり、既存の原発とは大きく異なると考え無期限凍結を表明したものです。

これらを踏まえ本所では、「大間原発の無期限凍結を求める要望」を函館市長をはじめ周辺市町の首長や関係機関、市民団体等と一丸となつて行い、今後も推進していきたいと考えております。

高橋知事へ協力要請(10/4)

工藤市長や松本会頭をはじめ高谷北斗市長、馬場七飯副町長ら7名が北海道庁を訪問し、高橋知事に対し大間原発の無期限凍結に向けた協力要請を行いました。

会談では、工藤市長が大間原発の建設無期限凍結を求めていく理由を説明し、北海道としても道南地域の思いを理解し、政府や電源開発に対し厳しく対応していくよう協力要請を行いました。また松本会頭は、大間原発による地域経済への影響は甚大として、ブランドとして定着している地域の農水産品に対する風評被害などについて懸念を示しました。

これらの要請を受け高橋知事は、大間原発の必要性や安全性について国に説明を求めていくと回答し、道南地域と連携して大間問題に取り組む姿勢を示しました。



高橋知事に対し大間問題の協力要請を求める要請団

大間原発中央要請(10/15)

工藤市長や松本会頭、高谷北斗市長をはじめ周辺市町の首長や議長ら総勢14名が内閣府や経済産業省、電源開発(株)を訪問し、大間原発の無期限凍結を求める要請書を手渡しました。

3度目となる中央要請では、過去2回ではなかった渡島管内全11市町をはじめ経済団体や組合などが連名で要望書を作成し、道南地域全体で無期限凍結を求めていることを強調し要請を行いました。要請を受けた齋藤官房副長官、園田副大臣、本多政務官らは、地域の思いに一定の理解を示した上で、建設の許可権限はあくまでも原子力規制委員会に委ねるなど明確な回答を避けました。なお、電源開発に対し要望書とともに提出した質問書の回答は、建設再開理由を「原発は重要なエネルギー源。安

全確保を前提に計画的に開発を進めていくことが必要」とし、安全面では「運転開始までに安全強化対策を確実に実施し、まずは建屋などできる工事から進めたい」などと従来の説明を繰り返しました。

また要請団は翌日、超党派の国会議員でつくる「原発ゼロの会」と懇談し、大間問題が国政に反映し議論が拡大するよう各党に協力要請を行いました。



齋藤官房副長官に対し要請を行う要請団

北海道知事等と全道商工会議所会頭との懇談会

本所から3項目の要望を高橋知事に提出

北海道知事等と全道商工会議所会頭との懇談会を去る10月12日、高橋知事や副知事をはじめ、北海道商工会議所連合会の高向会頭、本所からは松本会頭、全道商工会議所会頭など総勢62名が出席のもと開催しました。

当日は、道政に関する課題などについて議論し、地域の経済対策や地域振興などが道政に反映し実現するよう、高橋知事に対して冬場の電力需給対策の推進など10項目の要望を行いました。また函館からは、北海道縦貫自動車道七飯-大沼公園間の早期着工、災害時多目的船の整備等、HACの丘珠-三沢線開設時における函館空港の経路についての3項目を提出し、当地域の発展に欠かすことのできないインフラ整備事業や地勢的優位性を活かした政策などが、道政に反映され積極的に取り

組んでいただくよう、強く要望を行いました。

また、懇談会後には懇親会を行い、高橋知事や全道商工会議所会頭と情報交換などを行い、盛会裡に終了しました。



▲高橋知事に要望書を渡す道商連高向会頭（左）

■道南台湾観光友好協会を発足

定期便就航を機に更なる交流促進を図る

台湾の復興航空、エバー航空が相次いで国際定期便を就航させる機会を捉えて、本所が中心となって道南台湾観光友好協会を去る10月22日に設立しました。

函館には従来より台湾からのチャーター便で多くの観光客が訪れ、また関係者の尽力もあって台湾政府観光局との繋がりも強く、今年2月には台湾最大の祭典「台湾ランタンフェスティバル」点灯式に招かれ、PRブースの提供を受けるなど交流が深まっています。

当日は、本所をはじめ2市1町の4商工会が協会設立について協議し、松本会頭を顧問、石尾副

会頭を会長に選出、4商工会の会長がそれぞれ副会長に就任しました。今後は、各団体がそれぞれ協会員の募集を行い、12月には台湾政府観光局等から要人を迎えてのセレモニー開催が予定されています。

道南台湾観光友好協会 会員募集について

当協会は、道南地域（函館市及び周辺市町）と台湾との観光・文化・経済等の交流促進を目的とし、その達成に必要な事業を行う予定ですが、趣旨に賛同いただく協会員を募集しています。

【年会費】 法人：5千円、個人：3千円

詳細は総務課（Tel0138-23-1181）までお問合せください。

議員の異動

■職務を行う者の変更
平成24年11月1日付
◎2号議員
(株)不二屋本店

(新) 名取 明彦 氏
(旧) 名取 喜昭 氏

■合同委員会

青函圏の新たな交流を目指す

本所青函圏委員会と青森商工会議所の青函圏交流特別委員会との合同委員会を去る10月23日、函館側から久保副会頭、中野委員長、折谷副委員長、青森側から倉橋委員長が出席のもとロワジュールホテル函館において開催しました。

会議では、北海道新幹線新青森-新函館（仮称）の2015年度の開業を前に、函館と青森の会員企業が連携し、新たな商品や技術の開発につなげることを目指した「会員事業所パートナーシップ支援事業」について、青森側から提案を受けました。

青函交流は、函館市と青森市がツインシティの提携を結んでから親睦が深められてきましたが、ビジネス創出に關した連携には初めて取り組む事となり、当委員会では、新幹線開業に向けて青函圏の連携強化や地域経済活性化につなげる新たな展開を推進していくこととしました。



▲新たな青函交流について意見交換を行う参加者

■総務委員会

事業推進に向けた活動方針を協議

総務委員会を去る10月25日、佐藤副会頭をはじめ9名が出席のもとホテル函館ロイヤルにおいて開催しました。

委員会では、佐藤副会頭より本年度上期を終え半期決算状況について、予算通りの執行状況である旨の報告があったほか、事務局より会員の入退会状況をはじめマル経融資や健康診断サービス等の利用状況について、前年比で共に利用者が増加

傾向であるとの報告を行いました。また、今後本所全体の事業推進に向けた活動方針・方向性について協議を行い、出席者からは、会員へ活動報告を含めた情報提供や情報共有の推進、さらには議員を含めた会員相互の交流活発化等の意見が出され、これらを踏まえ今後さらに協議を重ね、当委員会として具体的な事業提案をしていくこととしました。



▲事業推進に向けて協議を行う参加者

■輸送ターミナル岸壁着工式

岸壁の安全と大型化を図る工事が開始

函館開発建設部による輸送ターミナル岸壁の着工式を去る10月26日、石尾副会頭が出席のもと函館港北ふ頭地区において開催されました。

整備される総延長190m、水深6.5mのL字型の岸壁は、海底の地盤改良により震度6強を想定した耐震の強化や、これまで船の縦付けを余儀なくされた不安定な係留から、安全な横付けに加え7千トン級の大型船の係留も可能となります。さらには、地震災害時にも緊急物資をはじめ一般の物流も滞ることなく荷役の安定化・効率化の向上が期待され、工事は2014年3月の一部供用開始、2015年の完成を目指します。



▲工事の安全を祈願しくわ入れを行う参加者

■はこだてスイーツフェスタ2012

地域のオリジナルスイーツが集結

道南の和洋菓子を集めて販売する「はこだてスイーツフェスタ2012」が去る10月26日～28日の日程で、棒二森屋7階催事場において開催されました。

3回目の開催となる今年は、青森・札幌・弘前からの3店を含む全25店舗が参加して、期間限定のオリジナルスイーツの販売やスイーツカフェをはじめ、和洋菓子づくり教室などが開催され、数多くの来場者が各店自慢のスイーツを堪能しました。また、函館市制施行90周年記念事業として開催された今年は、道南産の農産物を使って開発されたスイーツを出品しての「はこだてスイーツコンテスト」で各賞を受賞した商品も販売されるなど、例年を上回る華やかなイベントとなりました。



▲開催に先立ち挨拶を行う若山実行委員長

■台湾エバー航空の函館—台北線国際定期便就航を記念し出発式や記念祝賀会を開催

9月に就航した復興航空に続き、台湾エバー航空による函館—台北間の定期航空路線が去る10月28日に開設されました。

当日は、初便にて訪れた台湾からのお客様を歓迎すると共に、国際線ターミナルにおいて初便折り返し便の出発式を行い、松本会頭やエバー航空会社鄭会長をはじめ関係者によるテープカットが行われたほか、同日夜には市内ホテルにて記念祝賀会が催されました。

また併せて、久保副会頭を団長に、記念表敬訪

問団一行7名が、路線を開設したエバー航空へのお礼と安定運航・送客のお願いのため台湾を訪れ、旅行会社、交流協会台北事務所などとも親しく懇談しました。

エバー航空では日・水曜日の週2回1往復の運航を行います。冬期間には増便も予定されています。



▲定期便就航を記念してのテープカット

■議員会

日銀中川函館支店長から地域情勢等について聴講

議員懇話会を去る10月16日、加藤会長をはじめ38名が出席のもと函館国際ホテルにおいて開催しました。

当日は、日本銀行函館支店の中川支店長より「最近の海外・国内金融経済情勢」と「函館のビジョン」と題して講話が行われ、講話の中で、伸び悩む景気や少子高齢化に加え若年者の労働力流出・新幹線延伸など、あらゆる視点から当地域が直面する課題と、また、その克服に向けた当地域の活性化策について話され、参加者は熱心に聞き入りました。



▲地域活性化策などについて説明する中川支店長

■女性会

内山会長はじめ3名が北九州全国大会に参加

第44回全国商工会議所女性会連合会北九州全国大会が去る10月5日、内山会長をはじめ3名、全国から約2700名の会員が参加のもと福岡県北九州市において開催されました。

大会では、女性会連合会吉川会長より「行動する女性会として、より一層事業を展開していきましょう」との挨拶があり、記念講演会では、「ロボット会長奮闘記」と題し、(株)安川電機代表取締役会長の利島康司氏（北九州商工会議所会頭）より、産業用ロボットを中核に、人と共存するロボット市場を創造し、世界一のロボットメーカーを目指すことや、人材育成は期間やお金をかけてでも企業にとって大切であるとの講話を頂きました。

なお、大会において当会の齋藤光子顧問が、特別功勞表彰を授与されました。



▲全国大会に参加した齋藤顧問、内山会長、谷藤会員（右から）

■青年部

カルチャーナイトを開催し、多くの方が来場

はこだてカルチャーナイト2012を去る10月5日、はこだてカルチャーナイト実行委員会（実行委員長：高野青年部会長）の主催で開催しました。

当イベントは、普段なかなか見られない文化・教育施設などを夜間開放し、家族揃って地域の文化に触れていただくことを目的として、平成17年にスタートし、今回で8回目を迎えました。

今年は、4つの新規出展企業・団体を加えて函館駅前周辺・西部エリア・五稜郭エリア・湯川エリアの27会場に過去最高となる38団体・企業が出展、延べ7,792人が来場して大いに賑わいました。



▲海上自衛隊の掃海艇を見学する参加者

■今後のうごき

11月	
18 (日)	第132回簿記検定試験
19 (月)	ITコーディネーター相談
21 (水)	金融個別相談
22 (木)	・法律相談 ・青年部青函合同例会 ・北海道新幹線地域活性化フォーラム
25 (日)	第29回福祉住環境コーディネーター検定試験
26 (月)	・代替エネルギーに関わる懇談会・懇親会 ・常議員会
27 (火)	第54回優良商工従業員表彰式
28 (水)	・発明相談 ・第9回はこゼミ
29 (木)	セミナー企業の成長・発展を支える「環境経営」
12月	
1 (土)	2012はこだてクリスマスファンタジー（～25日）
2 (日)	・第33回カラーコーディネーター検定試験 ・第21回日本珠算連盟優良生徒表彰式・2012年全国そろばんコンクール
4 (火)	・青年部12月例会 ・女性会例会
5 (水)	・第4回臨時議員総会（予定） ・議員会歳末懇親会
9 (日)	第32回ビジネス実務法務検定試験
11 (火)	保証協会相談
12 (水)	経営相談
16 (日)	第13回環境社会(eco)検定試験
19 (水)	金融個別相談
28 (金)	・法律相談 ・仕事納め
1月	
4 (金)	仕事始め
8 (火)	保証協会個別相談
9 (水)	経営相談
【10月31日現在】	